

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-71069

(P2010-71069A)

(43) 公開日 平成22年4月2日(2010.4.2)

(51) Int.Cl.		F 1				テーマコード (参考)
E O 3 F	1/00	(2006.01)	E O 3 F	1/00	A	2 D 0 6 3
E O 3 B	3/02	(2006.01)	E O 3 B	3/02	Z	

審査請求 有 請求項の数 1 書面 公開請求 (全 2 頁)

(21) 出願番号	特願2009-158232 (P2009-158232)	(71) 出願人	508025275
(22) 出願日	平成21年5月27日 (2009.5.27)		菅原 隆
			埼玉県戸田市喜沢1丁目2番地32号松葉荘212号室
		(72) 発明者	菅原 隆
			埼玉県戸田市喜沢1丁目2番地32号松葉荘212号室
		Fターム(参考)	2D063 AA01 AA11

(54) 【発明の名称】 暗渠貯水浸透槽

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】都市型の集中豪雨における洪水や、ヒートアイランド現象による夏の猛暑対策を提供する。また、安い建設費で短期間の工事で安全を提供する。

【解決手段】都市型の洪水は、降った雨水が土中にしみ込まずに一気にどぶや排水路、河川に集中することによりひきおこされるので、貯水槽をもうけて土中に浸透させる。

【選択図】 なし

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

地下に設置し、雨水などを貯水しながら浸透させる貯水槽。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は雨水をただちに川に放水するのではなく地下に貯水し、浸透させる貯水槽に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来は雨水をどぶや排水路などで川に放水するだけであった。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

これは次のような欠点があった。

(イ) 従来の排水路は雨水をただちに川に放水するだけなので、都市型の集中豪雨においてはたびたび洪水をひきおこしており、地下鉄や地下街への被害も現実みをおびている。

(ロ) 都市部においては路面がほとんどアスファルトやコンクリートで覆われており、露出した地面が少ないため、雨水が地中にしみこみにくくなっている。本発明はこれを解決する手段として有効である。

【課題を解決するための手段】

【0004】

国や都道府県市町村が買収する必要がある、都市全体の面積のおよそ30%強を占めるといわれる道路の地下部分や公共のグラウンドや公園などだけでも、雨水を浸透させる貯水槽をもうけると、費用が安あがりな洪水対策になりえる。

【発明の効果】

【0005】

(イ) 排水路化した都市型の河川に雨水を集中させないことで洪水をふせぐ。

(ロ) 荒川を例にとると、荒川流域には都市部が発達しており、降った雨水のほとんどは地下に浸透することなく河川に流れ込んでいると思われるので、流域一帯の都市が貯水槽をもうけて、荒川への直接の流入量をへらせば台風などによる洪水対策になると思われる。

(ハ) 地下水のくみ上げにより地盤沈下が問題になっている所では、その対策として暗染貯水槽をもうけて、暗染排水の技術を真逆に利用し水を地下深部に浸透させることである程度の解決策になると思われる。

(ニ) 東京などの夏においては、地中に水分をたっぷり含ませることにより、草花樹木の立ち枯れを防ぐことができ、さらに緑地を増やすことにより、ヒートアイランド現象の抑制につながる効果が期待できる。

(ホ) 河川の流量については、土中よりゆっくりと浸み出してきた水により、ふだんからの流量が増え、清流化が期待できる。

(ヘ) また想定降水量により暗染貯水槽の大小の設計が可能なこと。

10

20

30

40